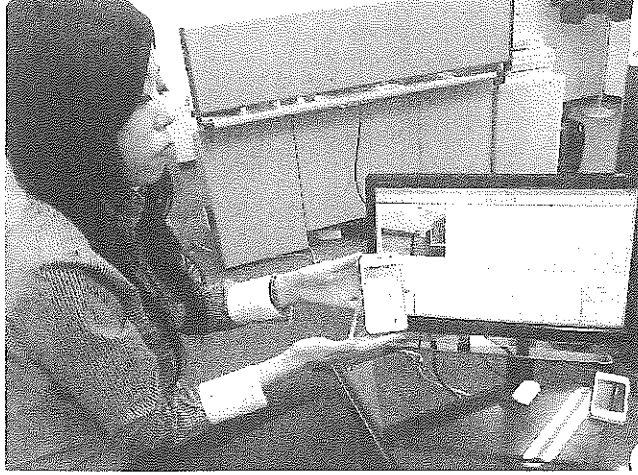


「あんしんの絆」普及に注力

対応者まで記録のナースコール

ユニティネットワーク

ソフトウェア開発のユニティネットワーク（本社・東京都新宿区、開発センター・高崎市東町126-12、掛川信弘社長 ☎027-338115405）は、介護施設向けのインターネット・ナースコール「あんしんの絆」普及に注力する。これまで関東地域の8施設に納入したが、県内ではまだ実績がなく、展不会などを通じ周知を図る。「入居者の安心・安全と、忙しい介護スタッフの負担軽減につながれば」（掛川社長）としている。



スマートフォンを端末として管理用パソコンと情報共有

同社は95年に創業。通信販売コールセンターシステムの受託開発や、07年度に「ぐんまのおすすめサービス賞」を受賞した独自の携帯メール連絡網サービス「びびっと君」などの実績がある。「あんしんの絆」は東京都から経営革新計画の認定を受けて開発、11年10月から販売開始した。

システムの概要は、入居者がサービスコール（ナースコール）を発信すると、中央管理サーバーを介して職員の持つ端

末（スマートフォン）を呼び出す。一斉呼び出しのほか、端末ごとに呼び出し範囲を区分することも可能。

呼び出し中は居室入口の専用灯も点滅し、近くにいる職員が見つげやすくなる。対応する職員は、端末上で自分の名前をチェック。誰が呼び出し誰が対応したか、施設内で同時に情報共有ができ、記録も残る。

オフションとして通話機能を加えると、端末と居室のマイクスピーカーとの通話や、端末同士を内線電話として使うことができる。居室に設置したカメラとつなげて室内画像を確認したり、各種センサー類と連動させて入居者の行動や位置の

把握、温湿度環境のコントロールなども可能になる。

導入に際し購入が必要なものハードウェアは、ルーターのみ。管理用パソコンと端末用スマートフォン、無線LANは汎用品で対応できる。予算や希望によって機能を選べ、段階的に機能をステップアップさせることも容易。

これまで導入した特別養護老人ホームなどでは、「管理室にいながら、誰がどこにいるのか

分かるのがいい」、「誰が何をしたか記録が取れるので、何かあった時の証拠として使える」などの声が寄せられている。カメラやセンサーとの連動は、利用者の意見を取り入れて付け加えた。

掛川社長は、「誰が対応したかまで分かるナースコールは、これまでなかったと思う。リーズナブルに多機能を盛り込めるシステム」と話し、国際福祉機器展や県内の各種展示会を通じ、普及を図る考え。

ぐんま経済新聞

2013年10月10日（木曜日）

第1853号 掲載